

＜先週の説教から＞

『ルカ66—私たちが滅んでもよいのですか？』

武田真治牧師

詩 編 107:23～31 ルカ福音書 8:19～25

ルカ福音書では、8章4節以下は、最初に「種まきのたとえ」と「ともし火のたとえ」が続いており、その次に、実際に起こった「イエス様の母と兄弟が訪ねて来る」とイエス様が「ガリラヤ湖の嵐を静められた」という二つの出来事が続いています。実は、これら4つの事柄は、他のマタイ福音書とマルコ福音書では各々、ほとんど別々に離れて置かれているものです。それにもかかわらず、ルカ福音書ではこの4つがセットとして置かれているのです。なぜ、そのようになっているのかと言えば、この4つの事柄は、すべて《み言葉つながり》としてまとめられているからと考えられています。

それは、①蒔かれた「種」とは“神の言葉”であり、道端にも石地にも茨の中にも蒔かれていると。②その神の言葉は「ともし火」として、人によく見えるように置かれているから「どう聞くべきかに注意なさい」と。③イエス様が「わたしの母や兄弟とは、神の言葉を聞いて行う人たちのことである」と教えておられるようにと続いているからです。それでは、最後の④番目である、今日の箇所＝イエス様が「嵐を静める」出来事は、どのように“神の言葉”とのつながりがあるのでしょうか？

この出来事とは「ある日のこと、イエスが弟子たちと一緒に舟に乗り、『湖の向こう岸に渡ろう』と言われたので、船出した。渡って行くうちに、イエスは眠ってしまわれた。突風が湖に吹き降ろして来て、彼らは水をかぶり、危なくなつた。弟子たちは近寄ってイエスを起こし、『先生、先生、おぼれそうです』と言った。イエスが起き上がって、風と荒波とをお叱りになると、静まって風になった。イエスは、『あなたがたの信仰はどこにあるのか』と言われた。」です。

イエス様が一緒に船に乗っておられるということは、何かあればイエス様が助けて下さるということでしょう。その上で「眠って」おられたのなら、尚更、大丈夫だということでは

はなかったのでしょうか。にもかかわらず、弟子たちは『おぼれそうです』と慌てふためいています。彼らはもと漁師でしたから、舟を操る経験からの判断だったと言えます。しかし、そこで“信仰が問われる”ということでしょう。ここでイエス様は『あなたがたの信仰はどこにあるのか』と、信仰の《場所》を問われています。ここが「種まきのたとえ」に通じていると言い得ます。今、み言葉はあなたがたの「どこに＝どのような土地にあるのか？」と「あなたがたの信仰はどこに行ってしまったか？」と。これは13節の「御言葉を聞くと喜んで受け入れるが、試練に遭うと身を引いてしまう人たち」の実例とも言い得ます。イエス様の弟子でさえもこうなってしまうことがあると！それ故、「どう聞くべきかに注意なさい」と教えられているのではないのでしょうか。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 1月28日(水) 20:00
II. 1月29日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記

祈祷主題: 受付奉仕を覚えて

担当者: (水) NY (木) OY

祈りに覚える人 OI さん OK さん

ひつじ雲の会 1月26日(月) 10:00～

【教勢報告】

主日礼拝 男21 女54 計75
祈祷会 I. 男3 女1 計4 II. 男1 女6 計7
日曜学校 幼稚科6 小中科8 計14
ハンナの会 (1月20日(火)) 男2 女5 計7

【次週礼拝】

2月 1日(日)

聖書: 創世記 1:1～8

ルカによる福音書 8:22～28

説教: 「ルカ67—向こう岸に渡ろう！」

武田真治牧師

讃美歌: 132(1)、32、444、462、418、

【次週当番表】 75(1～2)、90(1)

司式: IK 長老 奏楽: HN 礼拝: KY 長老

配餐: HS IS IH IK 各長老

献金: IK IA 受付: NE MH

会堂準備: AA AT SM YE

看板: HS 週報: II お花: MH

【次週集会予定】

礼拝前: ・日曜学校 ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・牧師と語る会 ・お茶の会 ・長老会

会堂管理委員会

67 - 4

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2026年 1月 25日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549